

“SDGsの自分ごと化”に向けた取組

－神奈川県「SDGsつながりポイント事業」－

SDGsという言葉を知る機会が増えたが、国・各自治体レベルでSDGsを活用した地方創生が行われているところ。当レポートでは、神奈川県の『SDGsつながりポイント事業』を取り上げ、地域活性化の一例として紹介する。

●SDGsとは？

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことで、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標を示したものだ。

2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。

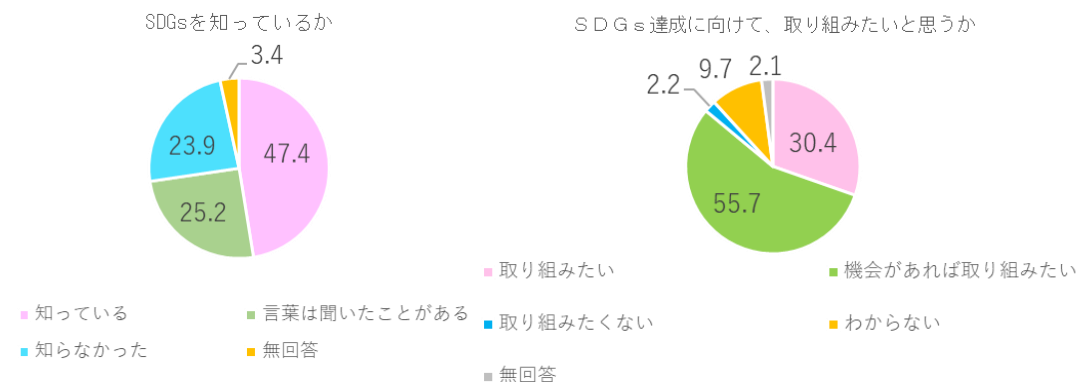
17のゴールは、世界が直面する課題を網羅的に示したもので、社会・経済・環境の側面から統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としている。



（出所）外務省パンフレット「持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組」

●神奈川県におけるSDGsの関心度

令和3年度県民ニーズ調査より



SDGsの意味を理解している県民は半数に満たない。一方、「知っている」と回答した者に限れば、SDGs達成に向けて取り組みたい者は8割超。

●神奈川県の取組（SDGsつながりポイント事業）

SDGsの達成に向けて、地域の社会的課題の解決を図る活動に、ポイントを通じて、住民・店舗・企業の直接・間接的な参加を促し、地域活性化とSDGsの「自分ごと化」を図ることを目的として令和元年度よりスタート。

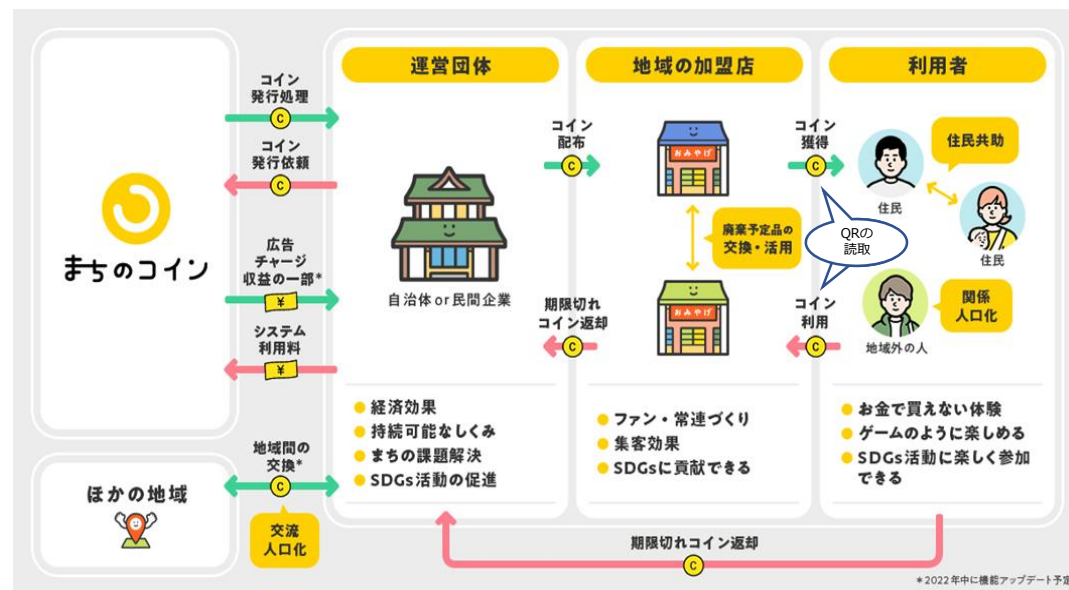


（出所）神奈川県HP

○参加団体（令和4年10月現在）

小田原市、鎌倉市、厚木市、横浜日吉地区

●まちのコインの仕組み



（出所）株式会社カヤックHP（一部財務事務所加工）

●小田原市の事例紹介（まちのコイン＝おだちん）

・おだちんまち歩きツアー

小田原を知り尽くした地元ガイドが案内する、魅力発見ツアー。実際に回るルートは当日のお楽しみ。

各スポットでクイズが出題され、おだちんを利用しながら楽しく小田原の魅力を知ることができる。

・まちのもったいないマーケット

地域内で発生した規格外や賞味期限切れ間近等で廃棄予定の食品を集めて、おだちんと交換できるイベント。

フードロス削減や廃棄物減少につながる。



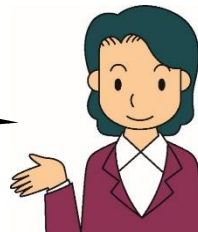
（チラシ出所）小田原市HP

●加盟スポットの声



（当事業のいいところは？）
当事業を通じてSDGsをより詳しく知った方もいるので、持続可能な社会とはどういうものか考えるいい機会になっている。

（導入してみたての変化は？）
設定するイベントにもよると思うが、ご近所の高齢の方も、若い人がスマホの操作を教えてください、当スポットを使用していただけようになった。



インタビュー先：参加4団体の各加盟スポット
イラスト：「消費者庁イラスト集」より

●事業の成果と今後の展望

成果

➢新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、**アクティビュージャー数は増加傾向**にあり、「SDGsの自分ごと化」としての活動も広がっていると理解。

➢県内外の市町村からの問合せも多くなってきており、本事業への関心の高まりを反映するものと考えている。**既に実施に向けた調整が動いている先もある。**

展望

➢新型コロナウイルスの影響で、予定していたイベント等を行えない事例も多くあった。本事業では、ポイント制度が活発に利用されることが不可欠であるため、利用促進に向けた取組を続けていきたいと考えている（ex.「かながわSDGsパートナー」登録先をはじめとする大企業に対し、各地域にまたがるスポット参加の打診を行う）。

➢ただし、**県はあくまで地域のSDGsの取組を後押しするという立場であり、運営主体は各市町村や地域の団体（民間事業者を含む）であることが大事**と考えている。（県担当課インタビュー）

●まとめ

➢神奈川県は今回取り上げた事業以外にも、「かながわSDGs取組方針」を基に、各種取組を行っている等、SDGs推進に積極的な団体である。

➢さらに、現在事業参加している4団体は当事業以外にも独自でSDGsに関する取組を積極的に行うなど、県同様、推進意欲の高い団体である。また、県内他団体においても、独自の取組を進めている先（パートナー認証制度等）は多く、当事業に関する問い合わせも多く寄せられているとのことで、当事務所としても地域と国をつなぐパイプ役として、神奈川県、各自治体と引き続き連携を図り、地域貢献を果たしたいと考えている。